

2026年5月11日

2026年3月期 決算短信補足資料



証券コード：4886

あすか製薬ホールディングス株式会社

決算ハイライト

2026年3月期 連結

売上高

✓ **711億円、前同比10.9%増加**

国内事業が堅調に推移したことに加え、海外事業の寄与により過去最高を更新

売上原価

✓ **369億円、売上原価率 前同比0.9ポイント増加**

国内事業は製品ミックスの変化や原価低減活動等により低下したものの、海外連結子会社の取り込みにより増加

販売費及び 一般管理費

✓ **283億円、売上高販管費率 前同比0.7ポイント改善**

海外連結子会社の取り込みや新製品上市による販売活動費等が増加したものの、売上高の増加が上回り、販管費率が改善

営業利益

✓ **58億円、前同比9.4%増加**

販管費の増加を上回る売上総利益の増加により増益

2027年3月期 連結

業績予想

✓ **売上高 730億円、前同比2.6%増加**

✓ **営業利益 62億円、前同比6.3%増加**

損益計算書（連結）

単位：百万円	2025年3月期	2026年3月期	増減額	増減率
売上高	64,139	71,127	6,988	10.9%
営業利益	5,331	5,834	502	9.4%
経常利益	5,107	5,665	557	10.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,101	5,424	323	6.3%

- ✓ 先行き不透明な状況が続く状況下においても、当社グループの事業は重点品目の伸長等により増収増益となり、「中期経営計画2025」で目標として掲げた売上高700億円、営業利益率8%、ROE8%を達成いたしました。

「中期経営計画2025」最終年度（2026年3月期）実績

売上高

711億円

営業利益率

8.2%

ROE

8.0%

セグメント別業績（連結）

単位：百万円

		2025年3月期	2026年3月期	売上 構成比	増減額	増減率
医療用医薬品事業	売上	56,655	58,927	82.9%	2,271	4.0%
	損益	6,349	7,121	—	771	12.1%
アニマルヘルス事業	売上	7,246	7,334	10.3%	88	1.2%
	損益	300	344	—	44	14.7%
海外事業	売上	—	4,640	6.5%	4,640	—
	損益	—	108	—	108	—
その他事業 (臨床検査、医療機器等)	売上	237	225	0.3%	△ 12	△ 5.2%
	損益	2	△ 13	—	△ 16	—
売上合計		64,139	71,127	100.0%	6,988	10.9%

- ✓ 医療用医薬品事業は、薬価改定の影響を受けつつも堅調に推移しました。産婦人科領域製品の「レルミナ」、「ドロエチ」が前年に引き続き増加し、内科領域製品の「チラーヂン」、「リフキシマ」は薬価のプラス改定の影響もあり大きく伸長しました。
- ✓ アニマルヘルス事業においては、動物用医薬品が堅調に推移し、売上高は前同比1.2%増加しました。

※ Hataphar社を連結子会社化したことに伴い、「海外事業」を新たに追加しております

主要製品売上高（医療用医薬品事業）

単位：百万円

領域	区分	製品	2025年3月期	2026年3月期		2027年3月期計画		特記事項(2026年3月期)
			実績	実績	前同比(%)	見込	前同比(%)	
内科	先発品	甲状腺ホルモン製剤 チラーヂン	8,113	8,775	8.2%	9,082	3.5%	薬価上昇に加え、数量も増加
	AG	高血圧治療剤 カンデサルタン類 ※1	8,545	7,884	△ 7.7%	7,213	△ 8.5%	薬価はダウンしたが数量ベースはほぼ維持
	先発品	難吸収性リファマイシン系抗菌薬 リフキシマ	6,455	7,883	22.1%	8,023	1.8%	薬価上昇に加え、数量も増加
	先発品	抗甲状腺剤 メルカゾール	1,567	1,654	5.5%	1,745	5.5%	薬価上昇に加え、数量も増加
	GE	高血圧治療剤 アムロジピン	797	791	△ 0.7%	744	△ 6.0%	前年度並みで推移
産婦人科	先発品	子宮筋腫・子宮内膜症治療剤 レルミナ	10,531	11,173	6.1%	11,340	1.5%	子宮内膜症でのシェア拡大に注力
	GE	月経困難症治療剤 ドロエチ	7,502	8,312	10.8%	7,678	△ 7.6%	薬価はダウンしたが、想定以上の数量増加
	AG	月経困難症治療剤 フリウエル	3,149	2,973	△ 5.6%	2,586	△ 13.0%	薬価はダウンしたが、数量は増加
	先発品	黄体ホルモン製剤 ルテウム	2,349	2,270	△ 3.4%	2,197	△ 3.2%	他社競合品による影響
	先発品	経口避妊剤 アンジュ	676	601	△ 11.0%	579	△ 3.6%	他社競合品の影響により数量は減少
	先発品	切迫早産における子宮収縮抑制剤 子癇の発症抑制・治療剤 マグセント ※2	723	670	△ 7.3%	568	△ 15.2%	想定よりも緩やかな減少
	先発品	経口避妊剤 スリンダ	—	392	—	1,019	159.9%	2025年6月30日発売開始。採用軒数は堅調に推移
泌尿器科	GE	LH-RH誘導体マイクロカプセル徐放性剤 リュープロレリン ※3	4,003	3,880	△ 3.1	5,596	44.2%	長期投与製剤へのシフトにより数量減少

※1 配合剤を含む ※2 硫酸マグネシウム製剤の合算値

※3 1.88mg製剤は産婦人科適応のみだが、3.75mg製剤とSR製剤（11.25mg、2025年12月発売）との合算値

主要事業分野別売上高（アニマルヘルス事業）

単位：百万円

事業分野	2025年3月期	2026年3月期		2027年3月期	
	実績	実績	前同比(%)	見込	前同比(%)
飼料添加物 混合飼料 飼料原料	4,584	4,513	△ 1.5%	4,469	△ 1.0%
動物用医薬品 (畜水産+CA [※])	2,601	2,640	1.5%	2,827	7.1%

- ✓ 2026年3月期は、アニマルヘルス事業全体では増収増益となりました。
- ✓ 2027年3月期においては、飼料添加物等が市場環境の影響を受け減少を見込む一方、動物用医薬品の伸長を見込んでいます。

※ コンパニオンアニマル

2027年3月期 通期業績予想（連結）

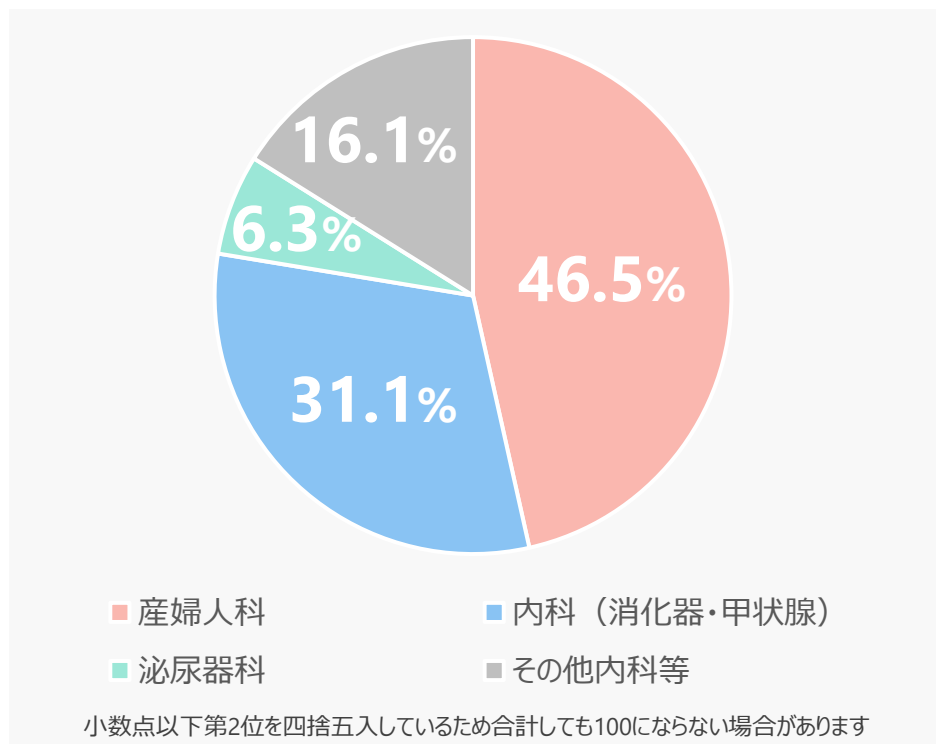
単位：百万円

	2026年3月期 実績	2027年3月期 予想	対前年 増減額	対前年 増減率
売上高	71,127	73,000	1,872	2.6%
営業利益	5,834	6,200	365	6.3%
経常利益	5,665	6,100	434	7.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,424	4,800	△ 624	△ 11.5%

- ✓ 売上高は、主力事業である医療用医薬品事業での「スリンダ」等の新製品の伸長や薬価改定による最低薬価の引き上げ、海外事業等での業績寄与により増収を見込んでおります。
- ✓ 利益面では、営業利益・経常利益はいずれも増加を見込んでいる一方、当期純利益は2026年3月期に発生した投資有価証券売却益の反動等があることから前同比11.5%減と想定しております。

領域別売上高比率と先発品・GE品売上高比率

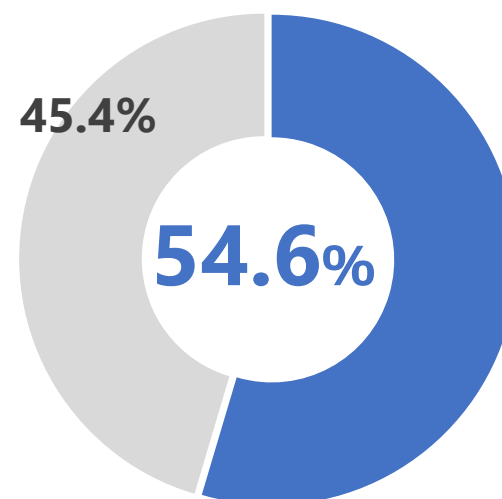
領域別売上高比率 (2026年3月期)



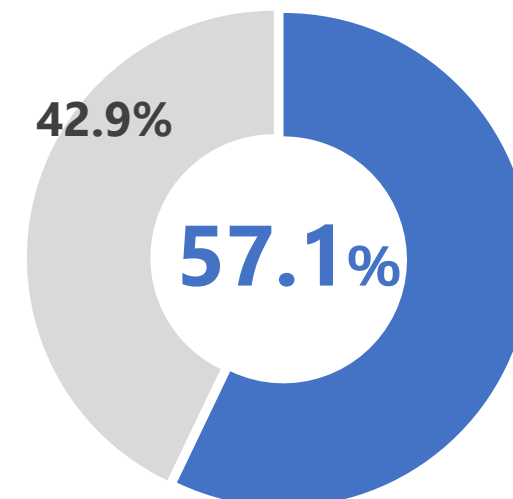
先発品・GE品売上高比率

■ 先発品 ■ GE品

2025年3月期



2026年3月期

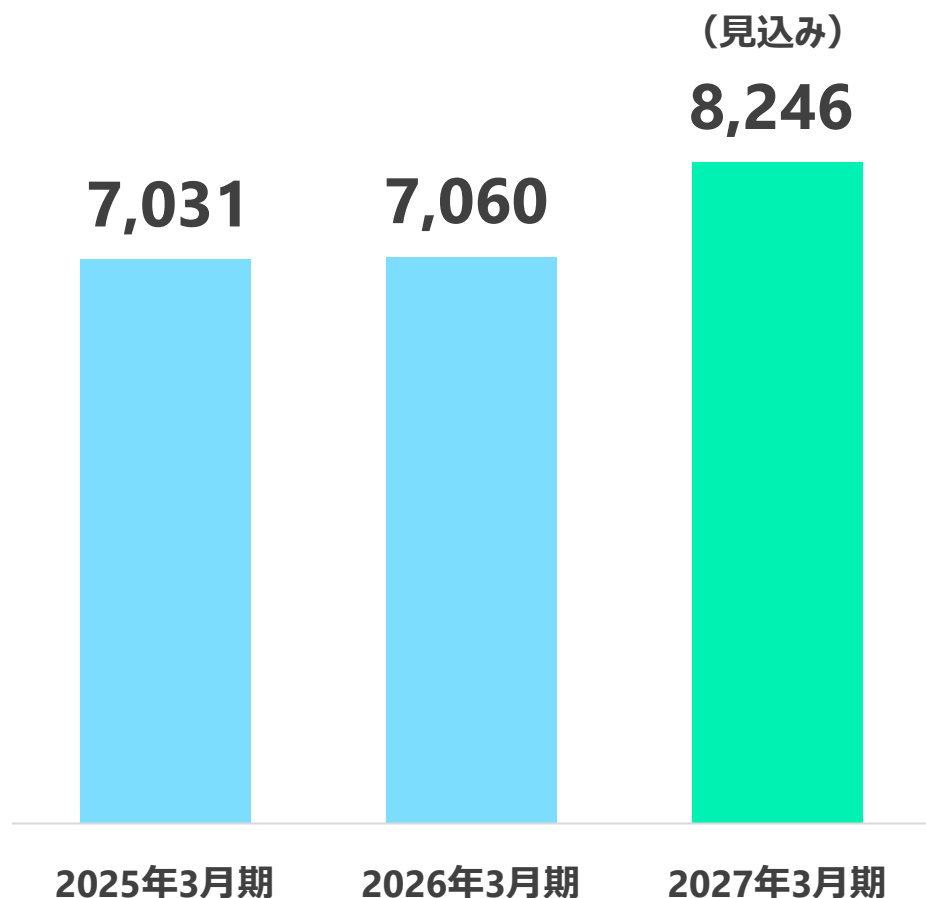


レルミナ、リフキシマ、チラーチンの伸長により製品ミックスが改善し、先発品比率は2.5ポイント増加しました。

研究開発の状況

研究開発費推移

(百万円)



2026年5月11日時点

開発番号(一般名)/領域・効能	状況
AKP-022 (レルゴリクス配合剤) 子宮筋腫	PhIII実施中
AKP-022 (レルゴリクス配合剤) 子宮内膜症	PhIII実施中
LPRI-CF113 (ドロスピレノン) 月経困難症	PhI/II実施中
AKP-SMD106 (治療用アプリ※1) 月経前症候群・月経前不快気分障害 (PMS・PMDD)	特定臨床研究※2 実施中
AKP-009 (ルダテロン酢酸エステル) 多嚢胞性卵巣症候群 (PCOS)	開発準備中
MCN-009 (治療用アプリ※1) 過敏性腸症候群 (IBS)	検証的治験※3 実施中
AKP-009 (ルダテロン酢酸エステル) 前立腺肥大症	PhII実施中
AKP-021 (mPGES-1阻害剤)	PhI実施中
AKP-017 (テストステロン経鼻剤)	開発準備中

※1 薬事上の一般的名称は新設予定のため未定

※2 医療用医薬品PhII相当、サスメド(株)との共同開発

※3 医療用医薬品PhIII相当、(株)MICINとの共同開発